

# 豊橋駅南地区

## 住民、商店経営者、有識者らでデザイン会議を結成

# あるべきまちなみ探る



水上ビルなどがある駅南地区

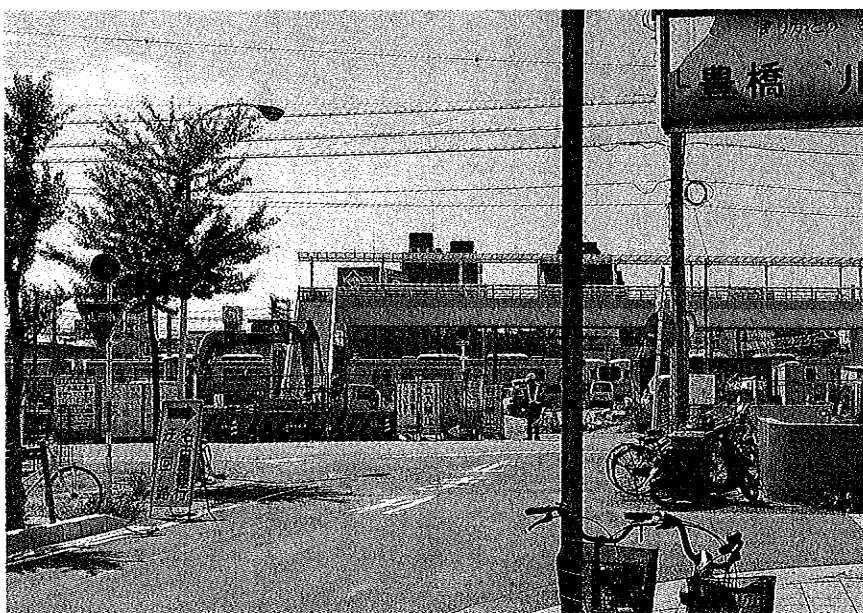
豊橋の中心市街地活性化に向けてさまざまな動きがある中、水上ビルなどがある豊橋駅東口南地区(駅南)のまちなみのあるべき姿を探るため、住民や商店経営者など地元と有識者らによる、「豊橋駅前大通南地区まちなみデザイン会議」(略称「デザイン会議」)がこのほど発足した。閉店する店舗が多い水上ビル一帯の商店街で、再び人をひきつけるためのまちづくりについて関係者が動き出した。

## 再び人をひきつけるために

デザイン会議は、上ビル一帯で毎年い有識者など15人で構成される。代表には、地元商店、住民、ペントを行う「se bone」事務局、発起人の一人、水上ビル(豊橋ビル)でお好み焼き店「伊勢」を運営する堀米



水上ビルの上つ川(牟呂用水)の上には建物があるのは全国的にも珍しい

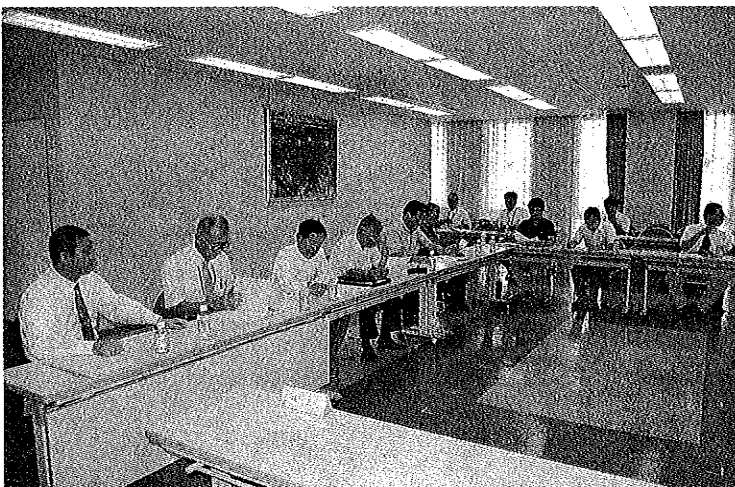


ペDESTリアンデッキ延伸部と水上ビルが直接つながる

治氏(豊橋ビル商業組合会長)が選任された。副代表には、まちづくりの専門家豊橋技術科学大学教授・大貝彰氏、地元の野崎優氏(駅前大通一丁目自治会副自治会長)、渡辺道雄氏(駅前大通二丁目自治会長)が就任した。

駅南地区は、東西は豊橋駅から駅前大通を259号線まで、南北は駅前大通から水上ビルまでの一帯をさす。おもな活動計画については、①良好なまちなみ形成の調査研究。②良好なまちなみ形成の推進方策

豊橋駅前大通南地区まちなみデザイン会議設立総会



などの検討。③まちづくりビジョンの作成(デザイン会議規約から)。

### 実現性の高いまちづくりを

かつて駅前が「マチ」といわれ繁華街としてにぎわっていたころ、水上ビル、名豊ビル、同ビル下にあったバスターミナル、開発ビルなどは、マチを構成していた一部だった。しかし、車社会の発展に合わせ、郊外のショッピングセンターが開発され、マチを訪れる人が減少。水上ビル一帯は、シャッターが閉まったままの商店が増え、さびれた印象を与える

ようになった。この状況を見逃げないと考えた地元商店街、住民らが一帯となって立ち上がり、新たなまちづくりビジョンを探るためデザイン会議発足にいたった。

今後は、「駅南地区」のまちづくりやまちなみ形成について多方面から調査研究し、議論を重ねていく。副代表の大貝教授の協力を得て同地区についてさまざまな角度から調査した現状レポートを作成し、メンバーで勉強会を重ね、まちづくりデザインについて探る。

09・10年度は、まちなみデザイン推進事業として国、県からの補助金を得て、まちづくりの方向性について調査や勉強会を実施する。豊橋市都心活性化課も「アドバイザー」としてかわりたい」と行方を注目している。10年度末に「まちづくりビジョン」の作成を行う予定だ。

中心市街地活性化など全体を網羅する施策とは違い、地域の住民や商店などが主体になって対象エリアを限定することで、実現性のあるまちづくりビジョンを作り上げていく。

この取り組みが人口40万人規模の地方中核都市のあるべき「まちなか」の姿をさぐるひとつのケースとなり、まちづくりの「豊橋版」の回答を見つけた手がかりとなることをめざす。

8月には駅前複合商業施設「コラフ」がオープン。人も駅南地区に流れ始めるようになってきたようだ。12年には芸術ホール(総合文化学習センター)もオープンする。

今後、「駅南」方向に増える人の流れをどのように水上ビルや周辺商店に誘導するかが駅南地区復興の力ギになりそうだ。